

“りんりん茶屋”イベント



着物を着て
ステキな写真を撮る
(1/14)6名

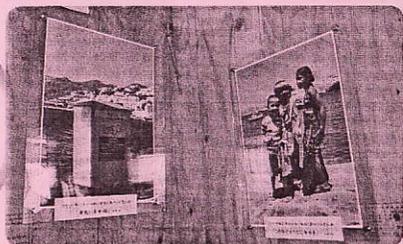
大型紙芝居で
新美南吉を
楽しむ
(1/19)25名



アロマ
マッサージで
リフレッシュ
(2/8)12名



お気に入りの
写真を紹介
(3月)8名



親子でランチバイキング
(2/23・3/16)30組

“イオン”幸せの黄色いレシートキャンペーン

皆さんより総額1,274,180円分の黄色いレシートを
投函いただき、1%に相当する12,700円をイオンギフト
カードでいただくことになりました。
4月12日(火)に贈呈式が行なわれます。

平成23年(2011)4月

NO.47

発行/特定非営利活動法人 りんりん
半田市岩滑高山町5丁目4番地
TEL(0569)21-3646 FAX(0569)32-6623
http://rinrin.or.jp E-mail npo@rinrin.or.jp

りんりんは皆様からのご賛同と、年会費で
支えられております。
ご支援賜りたく、年会費をお納めくださ
いますよう、よろしくお願いいたします。

ご寄付ありがとうございます

竹内 晴美 (敬称略)

りんりんでは、東日本大震災の義援金を
事務所で募っています、ご協力ください。

平成23年度総会 5月29日(日)

第一部 10時～総会

第二部 11時～井戸端会議

『元気になる居場所づくり』

※会員の方はぜひご参加ください。

りんりんのできごと

研修会

- 12月 普通救命講習26名
- 1月「支えあいの居場所づくり」交流センター45名
- 2月 緊急時の対応36名
- 3月 介護者に出来る医療行為 森田貞子さん42名

	12月	1月	2月	3月
絵手紙	13名	6名	14名	10名
さをり織り	23名	23名	22名	20名
生き生きサロン	165名	187名	199名	199名
小物づくり	休み	12名	15名	10名

(延べ利用人数)



会員数

協力会員	利用会員	賛助会員	合計
120名	53名	56名	229名

(H23/3月現在)

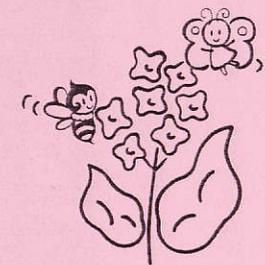
特定非営利活動法人 りんりん



『東日本大震災の方々へ心から お見舞い申し上げます』

3月11日に起きた大地震と大津波は想像もできないほどの大災害となりました。映像を通して見る光景は、まるで敗戦後のようだ
と思いました。この原稿を書いているのは災害後11日目。原発危
機回避への必死の作業の一方で、80歳の祖母と16歳の孫二人
が救出されたという情報も伝えられています。この会報をお届けす
るのが4月半ばだと思うと、さらに多くの死者や行方不明者が出て
いる恐れもありますが、半歩ずつでも復興に向けて動き出している
様子も思い描きます。

大災害にあった宮城県南三陸町長佐藤さんは「起きてしまった
ことはしょうがない。この現実からは逃れられません。でも後は向
きたくない。私が前を見なかったら町
民のみなさんも前を見られない。前を
見るしかないのです」と語っています。



映画監督の山田洋二さんは阪神
大震災の後、神戸市の長田地区で焼
け出された人達から「寅さんに来てほ
しい」という強い声があがって映画を
撮ったそうです。その声というのは、

「私たちが今欲しいのは同情ではない。頑張れという応援でも、
しっかりしろという叱咤でもありません。そばにいて一緒に泣いて
くれて時々おもしろいことを言って笑わせてくれる、そういう人です。
だから寅さんに来てほしいのです」というものでした。「貧弱な想
像力を懸命に働かせて、被災地の人たちを思い続けたい。そうす
ることですつながってほしい」と監督は語っています。これからも長く
続くであろう復興への日々を歩んでいかなければならない人たち
を忘れないよう、私はこの時の報道写真を大切に持ち続けようと思
います。

理事長 村上真喜子

「彼岸花」

水谷 泰啓 (消防保安課)

スタッフの方たちは利用者に対して大変親切に接しており、当初自分もあそこまでフレンドリーになれるのかという不安もあった。スタッフの方に「若い人が来てお年寄りや喜ぶのよ。たくさん話し相手になってあげてね」と背中をおされ、がんばって話しかけてみた。比較的障害の程度が軽い方が多かったため、案内スムーズに会話に入れてもらうことが出来た。回数を重ねることに利用者の方も自分のことを覚えてきてくれたことはうれしかった。

また、本当に話し相手が必要なのは、あまり自分から口を開かない方のほうなのだと思ふに思ふ、いろいろ工夫して話してみたい。徐々に心を開いてくれと言しか返ってこなかった返事が二言三言になっていった。小さなことだが介護のやりがいというのはこういうところにあるのかなと思った。

「発見」

樋口 雄亮 (コロニーはるひ台)

現場研修が始まる前はどんな研修になるのか不安だった。しかし最終日はもう少し研修したい、という気持ちで終わったことをうれしく思う。代え難い経験として子どもから職員、高齢者まで幅広い年齢層の人たちと会話をするのができた。高齢者と話す時は小さい声では聞こえない人もいた。何度も同じ事を聞く人もいた。なかなか盛り上がる話題を提供できず会話ができない時もあった。その中で相手に楽しんでもらうにはどのようにしたら良いか悩むこともあった。自分の職場は知的障がい者の施設である。2年目にして仕事も慣れ、最近利用者との1対1で向き合う機会があまり無く、相手の目線に立ついきがけであった。この経験を職場でも活かしていきたい。

「地域 いきがい」

岩崎 正裕 (水産試験場)

りんりんは「地域のつながり」の基盤としての機能を十分に担っていると思います。例えば、岩滑の事業所では学童保育と隣り合っていることから、小さな子供から高齢者の方まで多世代にわたる交流があり、このことは子育ての面からも、高齢者福祉の面からもメリットがあるのではないのでしょうか。また、りんりんでは生き甲斐づくりの場としても重要な役割を果たしていると思えます。週に1回、近所で野菜を作っている高齢者の方の直売所が設けられますが、このようなことは一般の企業でも、公的機関でも手軽にできるものではないと思います。ネットワークが軽く、地域と強い関わりをもってはじめてできることで、こういった取り組みは続いてほしいし、より多くの人(特に地域の人)に知ってもらいたいです。

「人とのふれあい」

片岡 雅貴 (知多建設事務所)

研修を通して、自分自身が一番学んだことは、人に対する思いやりの心がなければ、福祉の仕事は行えないということです。自分は、利用者が求めてくることには、何でも助けをすることがその思いやりだと思っていたのですが、利用者が出てくることまでも自分が行ってしまうことは、ただの過保護なのだと気づかされました。何でもやってあげればよいのではなく、出来ることは自分自身でやってみようとも思いやりのなのだと感じました。

デイサービスという言葉は耳にしたことがあったのですが、実際どういったことを行っているのかということについてはまったく無知でした。学童保育についても、共働きの親が増えた現代社会では、なくてはならない存在であることも感じました。自分があまり知らなかった福祉の仕事について知ることができ、自分自身も今後ボランティアとして福祉の仕事に携わる機会を増やしていきたいと感じました。

今後県民の方々の要望に対して、NPOの方々とともに解決している機会が増えていけばよいと思います。

「システムと臨機応変な対応」

片岡 哲朗 (知多農林水産事務所)

デイサービスで高齢の利用者と接することで、これまで深く考えたことがない、「お年寄り」について知ることができました。例えば、お年寄りの生活、行動、体が不自由になること、認知症を帯びることといったお年寄りとはどのような方なのかということから、接し方、世話の仕方までです。私は、はじめは戸惑いました。しかし、だんだん利用者個人個人の性格や特徴を知ること、うまく相手ができるようになりました。

「きめ細かいサービスの重要性」

伊川 愛子 (知多農林水産事務所)

一番強く感じたことは、「利用者さんは一人ひとり違うのだから、それぞれの個性をよく知って、一人ひとりに合うように対応をしていかなければならない」ということです。また、心を通わせることの喜びも感じる事ができました。始めはなかなか話しかけづらかった利用者さんにも、最後の方には色々話し合えるようになったりすると、とてもうれしかったです。

普段の業務で活かし、相手方と意見が食い違ったりしても辛抱強く話し合っており、お互い納得できるように努力していきたいです。

学童保育では、私は子ども達を前にして甘やかすだけしかできなかったのですが、それだけでは子ども達のよりよい成長のためにはならないのだと学ばせていただきました。学童保育の先生方は、優しい中でも時に厳しく、自分の子どもを育てるように接しているのを感じました。

日々の業務にとっても有益な経験をさせていただきました。

「最適な対応」

加藤 雅士 (都市整備課)

りんりんの始まりは、「1人暮らしの高齢者の手助けが出来ないか」というところから始まり、地域住民の方々の要望を受け、今ではりんごクラブ・りんりん茶屋など幅広く活動されています。「要望・アイデアが反映される」ところがNPO法人の利点なのだと感じました。福祉に関する仕事を通じては、業務に対する姿勢について学びました。

各種施設の利用者には、様々な介護レベル・性格の方々がいらっしゃいます。りんりんの職員の方々は、利用者それぞれの介護レベル・性格などを把握し、最適な対応をしているように感じました。そうした姿勢から、業務を行う際、マニュアル通りに行うだけでなく、その業務の特色を把握し、「利用者目線の対応」ができるよう、心がけることが重要であると学びました。

職員の方々はとても明るく、利用者の方ともとても仲良く過ごしていました。業務を円滑に進めるには、コミュニケーションが大事であるということを再認識しました。

「NPOとの協働のカチ」

橋本 久輝 (知多建設事務所)

デイサービスや学童保育で、直接県民の方々と接することができた。現在の所属の建設部では、担当者と県民とが、直接は顔が見えず、サービスに満足していたかどうかのかわかりづらい状況にある。県行政は県民に対するサービス業であり、県民に喜んでもらってはじめて成立するものだと感じた。デイサービスや学童保育等のサービスを受けられる方がいる一方で、そういったサービスを受けたくても受けられない方がいるのも事実である。行政としてNPOに対する支援も必要だが、そういった方への支援も拡充していくべきだと感じた。

今回の研修では教えていただくばかりだった。教えていただけることへの感謝を忘れずに業務に取り組みたいと感じた。

りんごクラブ

りんりん茶屋のお手伝い

3年 日比野佑奈

わたしは、茶屋のお手伝いをしました。ちらしずし作りとあんみつ作りです。あんみつはフルーツのせ・しるかけをしました。むずかしかった大変だったけれど、楽しかったです。3時間はたらいつかれました。でも、お手伝いができてとってもうれしかったです。また、き会があったらお手伝いしたいです。

3年 新美 博英

ぼくは、りんりん茶屋のお手伝いをしました。始めは、3連のはさみでちらしずしに使うのりのはさみで切りました。ものすごくつかれました。次にお客さんにいるちゅうもんを聞いたり、コーヒーをくばったりしました。最後にそうじをしました。

その中でのがりがすこくうまく出来ました。

3年 吉田 愛佳

私は、茶屋の仕事のお手伝いをしました。前にも茶屋の仕事をして楽しかったからです。ごはんのもりつけやちゅうもんの仕事をしました。なかでも、物を運ぶ事がたいへんでした。いつも、茶屋の人・家の人がやっているけど、たいへんさがわかりました。勉強になりました。



みんな



ひらいたよ



緑回を

